

029

日常時・非常時を分けない 「フェーズフリー」商品の開発と販売

取組主体

アスクル株式会社

従業員数

3,477人

想定災害

地震等

実施地域

東京都

- 常用品として快適に使用しながら、非常時にも機能を発揮する「フェーズフリー」商品の企画開発を行っている。

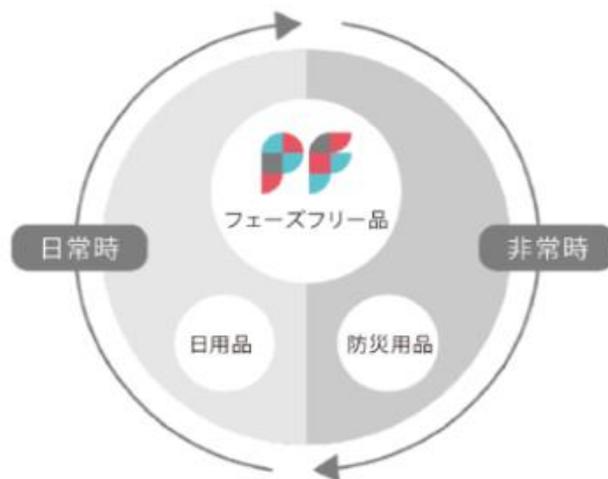
1 取組の特徴（はじめたきっかけ、狙い、効果、工夫した点、苦労した点）

日常時・非常時という社会のフェーズ（状態）を分けない「フェーズフリー」という考え方

- 事業者向けに事務用品等の通信販売を行うアスクル株式会社には、以前より中小企業の顧客から、防災やBCPの取組にコストや手間をかけるのは難しいという声が寄せられていた。平成30年に実施した同社の顧客向けアンケートでは、「災害時のために備蓄をしていない」と回答した企業が全体の6割を占め、その理由は「収納・保管するスペースが無い」というものが多かった。
- 顧客の防災に対する現状を変えたいと考えた同社は、日常時・非常時という社会のフェーズ（状態）を分けない「フェーズフリー」という考え方に賛同し、令和元年より、メーカーとフェーズフリー商品の企画開発・販売を始めた。

日常時の汎用性と非常時の有効性の双方を追求

- 日用品は日常時にのみ使用され、非常時には機能を発揮できないものが多いとはいえ、非常時だけ利用する物品にコストをかけられないという人も多い。また、災害に対して何をどのように備えたら良いのかわからないという人も多い。このような現状に対して提案されたのが「フェーズフリー」の考え方である。日頃から愛着を持って使用している商品・サービスを、非常時もそのまま利用できるため、「備えの難しさ」という社会的な課題を解決する糸口となることが期待されている。
- フェーズフリーには、①常活性：どのような状況においても利用できること、②日常性：日常から使えること、日常の感性に合っていること、③直感性：使い方、使用限界、利用限界が分かりやすいこと、④触発性：気付き、意識、災害に対するイメージを生むこと、⑤普及性：参加でき、広めたりできること、という5つの原則がある。同社がメーカーと企画開発した製品は、この5つの原則に従ってデザインされている。



フェーズフリーのイメージ
(一般社団法人フェーズフリー協会ウェブサイトより引用)

国土強靱化

日常性や直感性を重視した商品を販売

- 同社がメーカーと企画開発・販売した商品は、濡れた紙にも横や上向きでも書けるボールペン、耐水・耐冷で屋外でも使用可能なふせん、災害時に計量カップになる紙コップ等である。これらの商品は日常での使用にも向いており、災害用備蓄品として特別な保管スペースに格納する必要はない。
- 濡れた紙にも横や上向きでも書けるボールペンは、平時には濡れた紙にメモを書く際に役立ち、災害時には壁面の紙に伝言を書く際に、文字をはっきりと書くことができる。
- 日常性に優れた耐水・耐候性ふせんの「剥がれにくい」という特徴は、平時から水まわり等で使用する際に役立ち、発災時には、屋外等で緊急の情報を伝達する際に役立つ。
- また、華やかなデザインの目盛り付き紙コップは、平時には商談や顧客のおもてなしに使用し、非常時には炊き出しの際の計量や赤ちゃんへの授乳に使用することができる。



同社が販売する「フェーズフリー」商品は多様な使い方ができる

2 取組の平時における利活用の状況や効果

- 日常時に使用している商品を非常時においても使用できることで、コスト等により困難であった非常時向けの「備え」に対する意識軽減のサポートになるよう取り組んでいく。

3 現状の課題・今後の展開等

- 令和元年に始まった企画であるため、取扱商品が多くないことが課題である。同社は、今後もフェーズフリーな商品の新規企画開発や情報発信を通じ、顧客の事業継続をサポートしていく方針である。

4 周囲の声

- 非常時だけのものだと、しまいこんでしまうことが多いため、日常時に使えて、かつ非常時にも役立つものは経済的でとても便利だと思う。(同商品の利用者)
- 非常時の備えを準備するにはコストも場所もかかり、管理も大変なので、日頃から使用しているものを非常時に使えるのはいいと思った。(同商品の利用者)

担当者の声

- 災害が多発する日本において、フェーズフリーの概念に基づいた商品やサービスを提供することで、災害対応力を向上させることに微力でも貢献できればと思います。今後は、多くのメーカーと共に商品・サービス開発を進め、ビジネスとすることで、より持続可能性のある取組として進めていきたいと思っています。

問合せ先

アスクル株式会社 TEL : 03-4330-5150 FAX : 03-4330-4141 E-Mail : press@askul.co.jp